全教（全日本教職員組合）の枚方教職員組合のニュースです

全教 枚方教育

No.1858
2021. 5. 7.

全教・枚方教職員組合
枚方市西禁野 1-1-3
TEL 848-3300
Fax 848-3052

豊中市立小学校、枚方市立の保育所で大規模クラスター

学校での感染拡大の危機を防ぐために

変異株ウイルスの感染拡大が広がる中で、学校、保育所などの施設で感染が相次いでいます。連続、断続的に感染の判明が相次ぎ、休校、休園が広がっています。

大阪府立学校では 4/21 時点で 29 校が休校し、中には 4 月に 5 日ほどしか登校できていない高校もあります。とりわけ、学校、保育施設での大きなクラスターが発生している点には警戒が必要です。早急に、学校での感染拡大を防ぐ対応が求められます。

豊中市立小学校のクラスター

豊中市立の小学校では結果的に児童・教職員あわせて 35 名のクラスターにまで膨れあがりました。はじめは教職員間のクラスターが発生。当初保健所は児童の濃厚接触者は 5 名のみを特定して検査、陰性判定をしていました。　しかし、その後全児童対象の検査を実施した結果児童 13 人、教職員 22 人のクラスターに発展しました。

枚方市立保育所では児童施設で府下最大のクラスター

枚方市の保育所では、職員の２名の陽性者が出て、休園と保健所の濃厚接触者なしと特定で保育再開のお知らせを出しました。しかし、すぐにさらなる職員陽性者が出て再び休園に。全職員に検査した結果、６名の陽性者。園児にも続けて陽性者が出たため、全園児の希望者に検査を実施。さらに１５名の陽性が出るに至りました。

結果的に職員、園児あわせて３２名、その濃厚接触者の陽性者も含めると４２人の大クラスターとなってしまいました。

教職員への検査拡充と療養できる環境づくりこそ必要

上の２つの事例共に、結果的に、全園児、全児童対象の検査によって感染の実態が把握できたことは重要な教訓です。

積極的に広い範囲で検査を実施して、無症状を含めた陽性者を早期に発見すること。陽性者は一定期間、接触や活動を抑え、十分な療養をとることが重要であることを示しています。

大阪で重症者の増加はこれからさらに増えます。感染者の多さや、日々深刻さを増す医療現場の逼迫状況からすれば、この対応の徹底が重要と言えます。

十分な療養のため、市教委課題・業務削減と、授業時数の弾力的対応を

豊中市の例でも教職員が多数感染して、学校を再開しようにも先生が復帰できない状態に追い込まれてしまいます。

枚方教組がこの間、感染対策を行いながら必要な教育活動を維持するために、何度も市教委に申し入れをしてきた項目を早急に打ち出すべきです。

子どもも教職員も、安心して十分な療養をとりやすい環境作りを行うために、大胆な業務の削減や市教委の求める課題の大幅見直しを行い、学校で取捨選択を判断しやすくすることです。授業時数確保についても、学習内容の重点化や、休校・閉鎖で標準時数を下回ることもふくめた、弾力的な対応を明確に打ち出すべきです。

また、自身や家族の感染、風邪症状、子どもの休校、休園に当たっての、職免や特休を弾力的に適用し、在宅勤務や時差出勤、自動車通勤などの適用も周知して適用しやすくすることが必要です。

検査を府、市の責任で　「スマホ検査センター」、なぜ教職員は対象外？

また、PCR 検査の広範な積極的実施は喫緊の課題です。大阪府は、保健所を介さずにスマホで申し込める「スマホ検査センター」を介護施設・障害者施設の職員、利用者に無料で検査できるようにしています。第４波の中で、これを保育所・幼稚園職員にまで拡大していますが、学校教職員は対象外です。

教職員の感染を防ぐとこで教育活動を維持し、学校での感染を防げます。また教職員自身、基礎疾患を持っていたり、家族に高齢者、基礎疾患を抱えている場合でも、安心して勤務できる仕組みは切実な要求です。

大阪府も枚方市も、積極的で広範囲な検査を無料で行政の責任で拡大実施すべきです。

府下初、寝屋川市は、教職員への定期的 PCR 検査実施！

寝屋川市では、４月２８日に閉会した臨時市議会で、「教員が感染した場合、学年閉鎖や学校閉鎖も考えられ、子どもや家庭に大きな影響があり」として、教職員・保育士等に対して、月 2 回のＰＣＲ検査を実施する予算が成立しました。さらにワクチン接種の優先順位を引き上げて設定するとしています。　教職員への定期的 PCR 検査実施は，府下初となります。

枚方市でも、今後の感染対策を充実させる上で、個人の心がけや努力に依存するのではなく、市や教育委員会として実行ある対策を早急にとることが求められます。

とにかく実施!?　全国学テ・「すくすくテスト」は見送りを

大阪府教育庁が府下の５・６年生を対象にした「すくすくテスト」の実施要項を公表しています。

①「すくすくテスト」を「すくすくウォッチ」と名称を変更。

②５年生は国・数・理と教科横断型問題（「わくわく問題」）、児童アンケート、
　６年生は教科横断型問題、児童アンケート（全国学テで理科実施予定が取りやめに，府も予算化できず）

③実施日も全国学テの５／２７としていたが、５／２６～６／２の中で学校で決めて実施。

全国学テもコロナの学習遅れで１ヶ月遅れの実施、しかも理科の実施は見送っています。全国学テに抱き合わせで実施予定だった「すくすくテスト」も実施方法、内容を大きく変えて実施するとしています。

そこまでして実施する意味がどこにあるのか、学校行事やクラブ活動が中止される中で、誰が見ても，理解できません。

5月8日(土) のまなび庵・小池敦子さんの「笑顔広がる学級づくり」
6月12日(土)10:00～市民会館(予定)に変更します